

世の終わり

加藤 享

〔聖書〕ヨハネの黙示録20章1～15節

わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から降って来るのを見た。この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。

わたしはまた、多くの座を見た。その上には座っている者たちがおり、彼らには裁くことが許されていた。わたしはまた、イエスの証しと神の言葉のために、首をはねられた者たちの魂を見た。この者たちは、あの獣もその像も拝まず、額や手に獣の刻印を受けなかった。彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した。その他の死者は、千年たつまで生き返らなかった。これが第一の復活である。第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。この者たちに対して、第二の死は何の力もない。彼らは神とキリストの祭司となって、千年の間キリストと共に統治する。

この千年が終わると、サタンはその牢から解放され、地上の四方にいる諸国の民、ゴグとマゴグを惑わそうとして出て行き、彼らを集めて戦わせようとする。その数は海の砂のように多い。彼らは地上の広い場所に攻め上って行って、聖なる者たちの陣営と、愛された都とを囲んだ。すると、天から火が下って来て、彼らを焼き尽くした。そして彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄の池に投げ込まれた。そこにはあの獣と偽預言者がいる。そして、この者どもは昼も夜も世々限りなく責めさいなまれる。

わたしはまた、大きな白い玉座と、そこに座っておられる方とを見た。天も地も、その御前から逃げて行き、行方が分からなくなった。わたしはまた、死者たちが、大きな者も小さな者も、玉座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。海は、その中にいた死者を外に出した。死と陰府も、その中にいた死者を出し、彼らはそれぞれ自分の行いに応じて裁かれた。死も陰府も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。その名が命の書に記されていない者は、火の池に投げ込まれた。

〔序〕恐ろしい世界の中で

川越でも、先日突然震度3の地震がありました。ドキッとしましたが、直ぐにおさまったのでホッとしました。そして熊本の人々を思いやりました。震度7の地震に2度続けて襲われただけでなく、この一ヶ月間に震度1以上の地震に1400回以上も襲われているのです。平均すると一日40回以上になります。このように頻繁に地震に襲われたら、心身のストレスは募る一方で、休まりません。心身の変調に苦しむ人がどんどん増えていって当然です。恐ろしくなりました。東日本大震災の場合は、津波の大被害だけでなく、原子力発電所の破壊による放射能汚染の脅威という新しい被害の深刻さが加わりました。

熊本と海を挟んだ島原半島では、1990年11月に雲仙の普賢岳が突然大噴火しました。火砕流に襲われて麓の部落は820軒の家が焼け落ち、44人が死にました。4年半にわたって幾千回も起こった溶岩の噴出がやっと止まり、6年経った96年から人々は村に戻るこ

が出来ました。その間麓の町々では、**お山さまの怒り**を鎮めようと、神社や寺に集って様々な神事が行われました。普段は穏やかに恩恵を与えてくれる**大自然**が、突然荒れ狂って災害をもたらす時に、私たちはそれを**神の怒り**と受け取り、ひたすらその怒りが鎮まるように祈り求めます。大自然の前では、私たち人間の力は余りにも小さく、**無力**だからです。

この他にも、台風、大洪水、大旱魃等の自然災害に加えて、戦争、爆破、テロ、武器を手にした殺し合い等が世界の至るところで発生しています。それに加えて、私たちの平凡な日常生活のなかでも、家族、友人関係で傷つき、死に至るトラブルが絶えません。私たちは危険に溢れた**恐ろしい世界**の中に身をおいて、毎日暮していることをあらためて思い知らされています。

[1] 神の裁き

神はどのようなお方なのでしょう。聖書は、**初めに神は、天地万物を甚だ良いもの**としてお創りになったと、書き始めています。そして私たち**人間**を、神ご自身に似る者として創り、楽園の管理を一任されました。しかしアダムとエバ夫婦は、**善悪の判断**だけは神に聞き従うようにという命令に反して、自分で善悪を判断して行動するようになり、その結果、神が創造された楽園は大きく**変質**して、今日このような罪に満ちたものになってしまいました。

そこで神は、**大洪水**をもって、地に満ちた**不法の一切**を拭い去る決意をされます。すると**神の警告**を真剣に信じたノアだけが、箱舟を建造して大洪水に備え、生き延びることが出来ました。しかし備えを怠ったノアの家族以外は、皆滅んでしまいました。その悲惨な結果を見て、神は、もう二度とこのような洪水を起こさないとお決めになります。それは「**人が心に思うことは、幼いときから悪い**」という現実を痛切に受けとめられたからです。(創世記 8:21) そしてそれ以来神は、人間を**罪から救うみ業**を進めることになされたのです。

その**救いのみ業の決定版**が**イエス・キリストによる世界の救い**です。この救いはイエス・キリストの**十字架の死と復活**によって、この地上に打ち立てられました。この十字架の**福音**が、弟子たちによって**全世界に宣べ伝えられる**と、キリストが再び**この世に来て下さり**、一切の悪を裁き、取り除いて、**新しい天と地**を確立して下さるのです。

先日も申し上げましたが、札幌時代に教会の近所の豪華なマンションに住んで居る人から、激しい抗議の電話がかかってきたことがありました。**最後の審判**だとか**地獄の滅び**だとかの**不吉なパンフレット**を郵便受けに入れるとは非常識だ、という怒りからでした。他の団体の誰かが配ったのでしょうか。

でも皆さん。不愉快になるから聞きたくないといっても、私たちは皆、**神の裁きの座**に立たなければなりません。学生に**試験**は付き物です。会社や商店で**決算**や**棚卸**をしない所などありません。とすれば私たち**一人一人**も、与えられた人生を**どう生きたか**を問われて、

清算しなければならないのは当然です。

「人間には **ただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることとが定まっている**」(ヘブライ9：27)と聖書にははっきり記されています。「お前は私が与えた命をもって、どのように生きたのか」と神から問われる時が、必ず来るのです。これは**人生の厳然たる現実**です。その時はっきりお答えしなければいけないということを、私たちはいつも自覚して、**責任のある生き方**をしていかなければなりません。

〔2〕千年間の支配

さて私たちは4月から**ヨハネの黙示録**を読み進めてきましたが、いよいよ第20章、最終段階に達しました。天から地上に投げ落とされた巨大な**赤い竜**、サタンとか蛇とか言われる**悪魔**が、地上で信仰者を迫害して、悪の限りを行ってきましたが、遂に地上からも追放されます。天使によって**底なしの深い淵**に投げ入れられて、諸国の民を惑わさないように、縛られた上で、鍵をかけられて監禁されてしまいました。

そして地上では、神ならざるものを拝むことをしなかったために**殉教の死**を遂げた者たちが復活して、キリストの御心に従って世界を統治したので、地に**平和が回復**します。しかし悪魔に服従して神ならざる者を拝んでこの世の生涯を閉じた者たちは、生き返ることを許されませんでした。

ところが**1000年**経つと、悪魔が底なしの淵から解放されて、地上に戻ってきます。そして**海の砂**のように多くの手下を再び呼び集めて、キリストの御心に従って平和を打ち立てていた者に攻め上って来ました。キリスト者の陣営は危機に直面します。すると**天から火**が下って来て、彼らを**焼く尽くし**、悪魔は**火と硫黄の池**に投げ込まれました。その火と硫黄の池には、自らを神として人々に礼拝を強要した王たちも、その追従者たちも投げ込まれ、**世々限りない苦しみ**を受け続けることになりました。また、殉教の死を遂げた者以外の者たちも皆、死から甦って神の王座の前に引き出され、各自の行いに応じて裁きを受けます。そして**火の池**に投げ込まれました。

こうして古い天と地は取り除かれ、いよいよ新し天と地がこの地上にもたらされます。そして、世界中の人が皆神を賛美しつつ、喜び輝いて平和に暮すようになるという希望が語られ、「**アーメン、主イエスよ、来て下さい**」という言葉で、黙示録は終わります。21章、22章を繰り返しお読みください。次週29日は女性連合の新しい幹事米本裕見子先生をお迎えしますので、6月の第一日曜の礼拝で一緒に学ぶことにいたします。

さて、20章のタイトルは、「**千年間の支配**」です。1節から3節をもう一度読み返してみましよう。「わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から降って来るのを見た。この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封

印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。」

折角**悪魔**を捕えて、鎖で縛り、底なしの淵に投げ込み、鍵をかけ、封印までして閉じ込めておきながら、どうして千年後には、しばらく**解放する**のでしょうか。信仰に忠実に生き、殉教の死を遂げた者たちが復活してキリストと共に世界を治める喜びが、たとえ千年という長い期間だとしても、**一時的なもの**で終わり、再び悪魔が解放されて、破壊活動を始めると、**どうして**神は許されるのでしょうか。どうして一挙に21章の新しい天と新しい地がもたらされないのでしょうか。この点について皆さんはどう受け取られましたか。

〔3〕神の徹底した厳しい裁き

7節以下をお読み下さい。サタンと呼ばれる悪魔は、底なしの深い淵という牢獄に鎖で縛りつけられ、監禁されたのです。ところが、そのまま死刑に処せられて世界から消し去られて然るべきなのに、**解放**されました。案の定、悪魔は地上に戻ると、早速人々を惑わして、海の砂のように多い軍勢で、信仰者たちがキリストの許で**平和を回復した地**を破壊しようと、攻め上ってきました。しかし、そのような事態になった時に、神はどのように対応なさったのでしょうか。9節後半以下をお読み下さい。

「すると、**天から火が下って来て、彼らを焼き尽くした**。そして彼らを惑わした**悪魔は、火と硫黄の池に投げ込まれた**。そこにはあの獣と偽預言者がいる。そして、この者どもは昼も夜も世々限りなく責めさいなまれる。」

悪魔に惑わされて攻め上ってきた海の砂のように大勢の者たちは、天から火が下って来て、焼き尽くされてしまったのです。そして総大将の悪魔は、火と硫黄の池に投げ込まれ、消滅してしまうのではなく、**世々限りなく責めさいなまれ続ける罰**を受けることになったのでした。これは悪に対する**神の徹底的な裁き**が行われたことを、表わしています。

悪魔の神に対する**反逆**は、底なしの深い淵に監禁するくらいでは治まらない**執念深い**ものであること、そこで神も**徹底的な裁き**を行われたのではないのでしょうか。この神の厳しい徹底した裁きによって、「**これまでの天も地も**御前から逃げて行き、行方が分からなくなった」と記されています。悪魔の働きを許した天と地も裁きを受けて姿を消しました。こうして新しい天と地がもたらされる準備が進められていったのでした。

しかし悪魔とその手下が裁かれただけでは、未だ新しい天と新しい地を迎える準備は完成しません。それが**死んだ者たちの審判**です。12節以下をお読みします。「わたしはまた、死者たちが、大きな者も小さな者も、玉座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。海は、その中にいた死者を外に出した。死と陰府も、その中にいた死者を出し、彼らはそれぞれ自分の行いに応じて

裁かれた。死も陰府も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。その名が命の書に記されていない者は、火の池に投げ込まれた。」

海にのみ込まれて遺体の見つからないまま死ぬ人がいますが、多くの人は葬儀を営んでもらい、墓に葬られます。しかしどのような死者も、「**書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた**」とあります。神による最後の審判は、記録に基づいて行われるのです。すると私たちの**生きている間の行動記録**が、**神の許に届けられている**ということになります。何と恐ろしいことでしょうか。

21章の8節にも、こう記されています。「しかし、おくびょうな者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、みだらな行いをする者、魔術を使う者、偶像を拝む者、すべてうそを言う者、**このような者たちに対する報いは、火と硫黄の燃える池である**。それが、**第二の死**である。」

【結】キリストによる救い

では、一体誰が、新しい天と新しい地に住むことが出来るのでしょうか。私たちのシンガポール時代の2001年9月11日に、アメリカでイスラム教徒による**同時多発テロ**が発生し、世界中が大きなショックを受けました。シンガポールでも爆破計画が発覚したこともあり、**イスラム教徒への拒否反応**が国中に広まりました。そこで私たち日本語教会は、イスラム教の教師を招いて、イスラム教についての学習会をしました。

その時の答はこうでした。「イスラム教徒の願いは、クムラーンをしっかりと守って**天国に迎えらる**こと。生前の**悪い業**が善い業よりも一つでも多ければ、**地獄行**になる。人は自分で気付かずに悪を行うこともあるから、余程多くの善い業を積まなければ安心できない。しかし**殉教の死**を遂げた者は無条件で天国に迎えらる。本人だけでなく家族もその恩恵にあずかれる。だから殉教の死は、家族にとっても有難い信仰の行いなのである」人の命を殺すことで歓迎される天国とは、どのような所なのでしょうか。

しかし聖書はこのように語ってくれています。「**人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。**」(ローマ3:23~24)

十字架の裁き——これはこの私が受けるべき裁きです。その裁きをキリストが、私に代わって受けて下さり、ご自身が流された貴い血汐で私の罪を清めて下さいました。私の罪を贖って下さいました。それ故に私は、こんな者ですのに、**天国に迎え入れていただける**のです。その救いを授けて下さった主イエスを救い主と信じて、愛の霊を頂き、どんな人とも愛し合い、赦し合い、仕え合って、生きて参りましょう。

祈ります：主なる神さま、あなたは階段を上るように、順序を追って、救いの御業をお

進め下さいました。あなたはこの世界に広まった悪を一掃するために、大洪水を起こされましたが、それでは私たちの罪深さを清めることが出来ないことを、お悟りになりました。そして信仰者・預言者をたてて、悔い改めて主に立ち返るように、心を尽くして呼びかけて下さいました。遂に、イエス・キリストとなってこの世にご自身を現し、私たちの罪をご自身が引き受けて、この世の最も重い刑罰、十字架について下さいました。ご自身の貴い血汐をもって、私たちの罪を清め、その命をもって私たちを贖い、天の御国に迎える恵みを備えて下さいました。貴方は今日もみ言葉をもって、悪魔を火と硫黄の池に投げ込んで徹底的にお裁きになる御業をお示し下さり、有難うございます。あなたの裁きを心から恐れる者にして下さい。十字架の救いを信じ、その愛に生きる者にして下さい。救い主イエス・キリストの御名によって、お祈りします。 アーメン